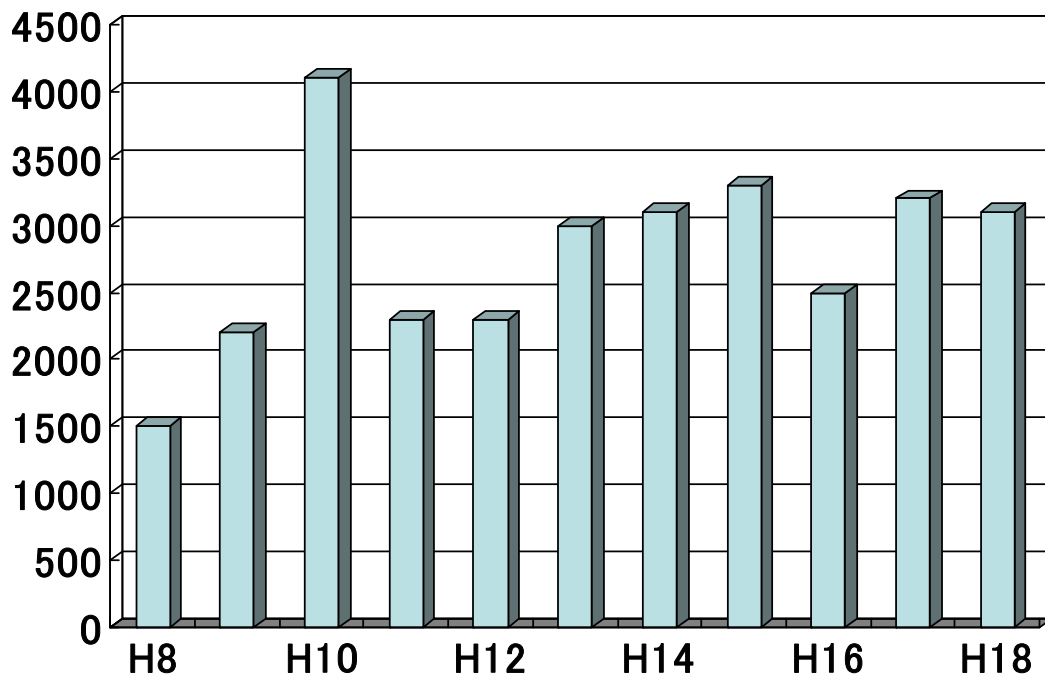


エコパークゾーンの現状（補足説明）

アオサの海域回収量の推移(和白地区)

(m^3)



アオサ回収による窒素、リンの除去

アオサの成分(乾重量あたり)

窒素=2.2%~3.1%→約2.7%

リン=0.19%~0.20%→約0.2%

(平成7年度港湾局調査)

アオサ回収による窒素、リンの除去

平成18年度

海域回収

和白海域

$$3,100 \text{ m}^3 \times \text{比重 } 0.6 \times (1 - \text{水分約}90\%) \\ = 186 \text{ t (乾重量)}$$

窒素 $186 \text{ t} \times \text{約}2.7\% = \text{約}5,000 \text{ kg}$

リン $186 \text{ t} \times \text{約}0.2\% = \text{約 } 370 \text{ kg}$

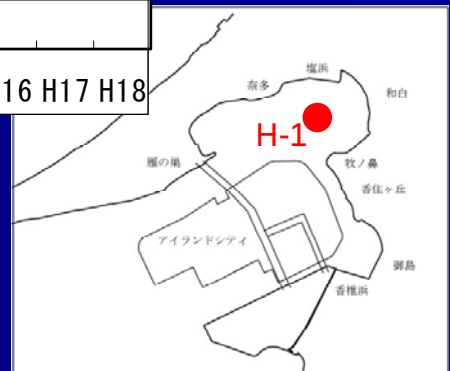
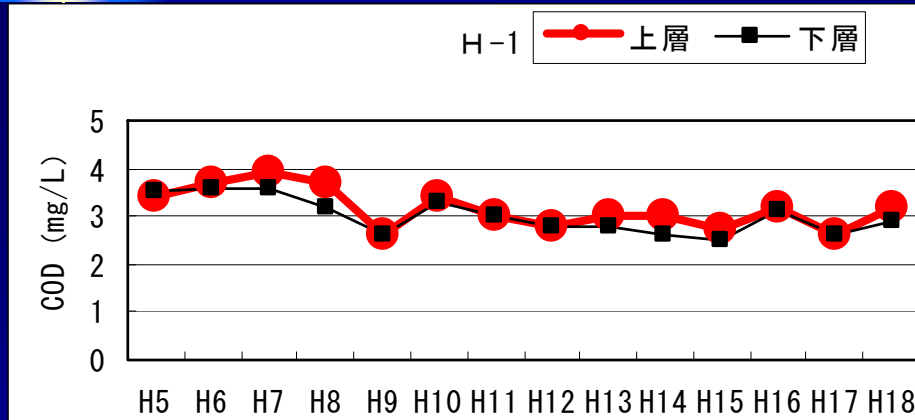
アオサ回収による窒素、リンの除去量

		回収量 (湿重量)	窒素換算量 (kg)	リン換算量 (kg)
海域回収	和白	3,100 m ³ (1,860 t)	5,000	370
	百道	450 m ³ (270 t)	700	50
陸域回収		400 t	1,100	80
合 計		2,530 t	6,800	500

博多湾年間流入負荷量	約540万	約23万
アオサで回収している割合	約0.13%	約0.22%

水質(COD)

和白海域(H-1)



和白干潟の利用状況

昭和30年代



海苔ひび

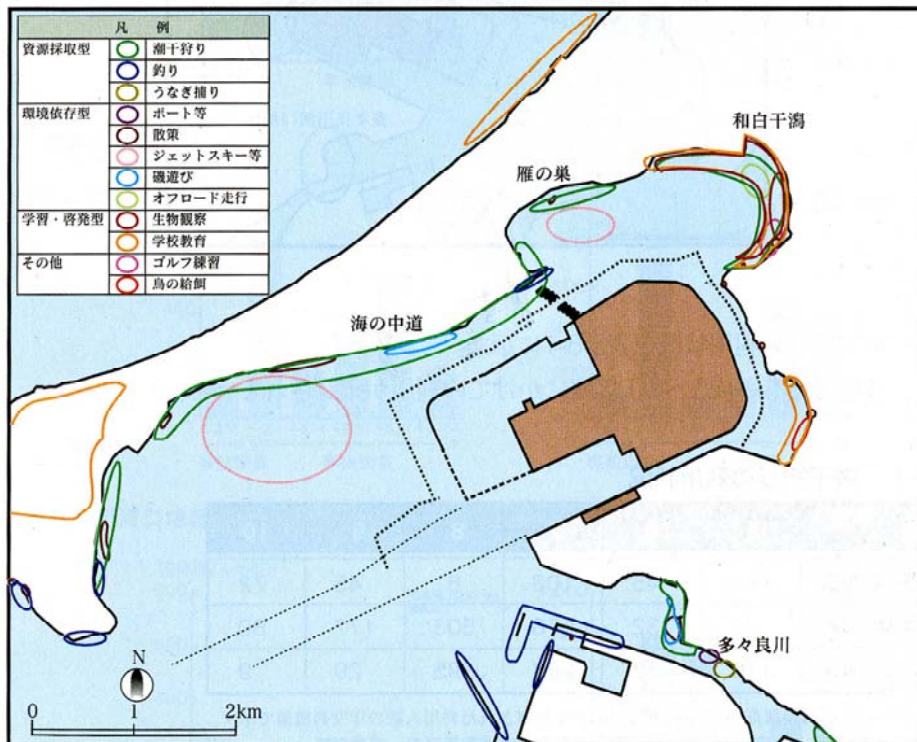
戦後～昭和56年まで



海水浴

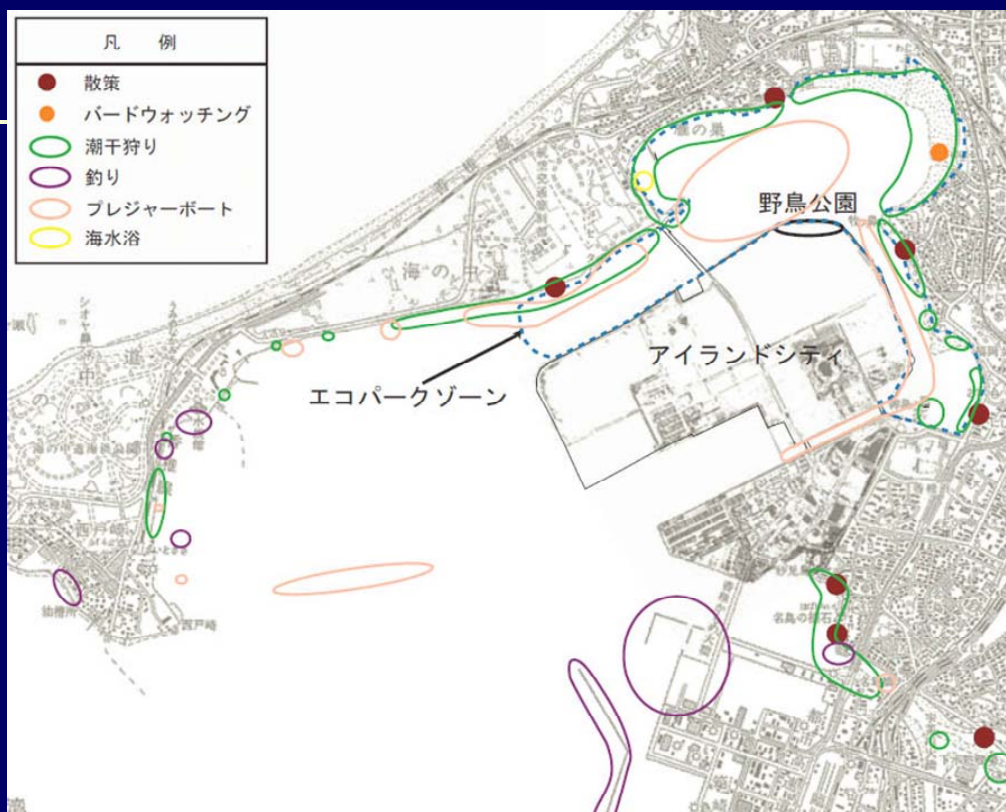
人の利用状況-1 (H5～H11)

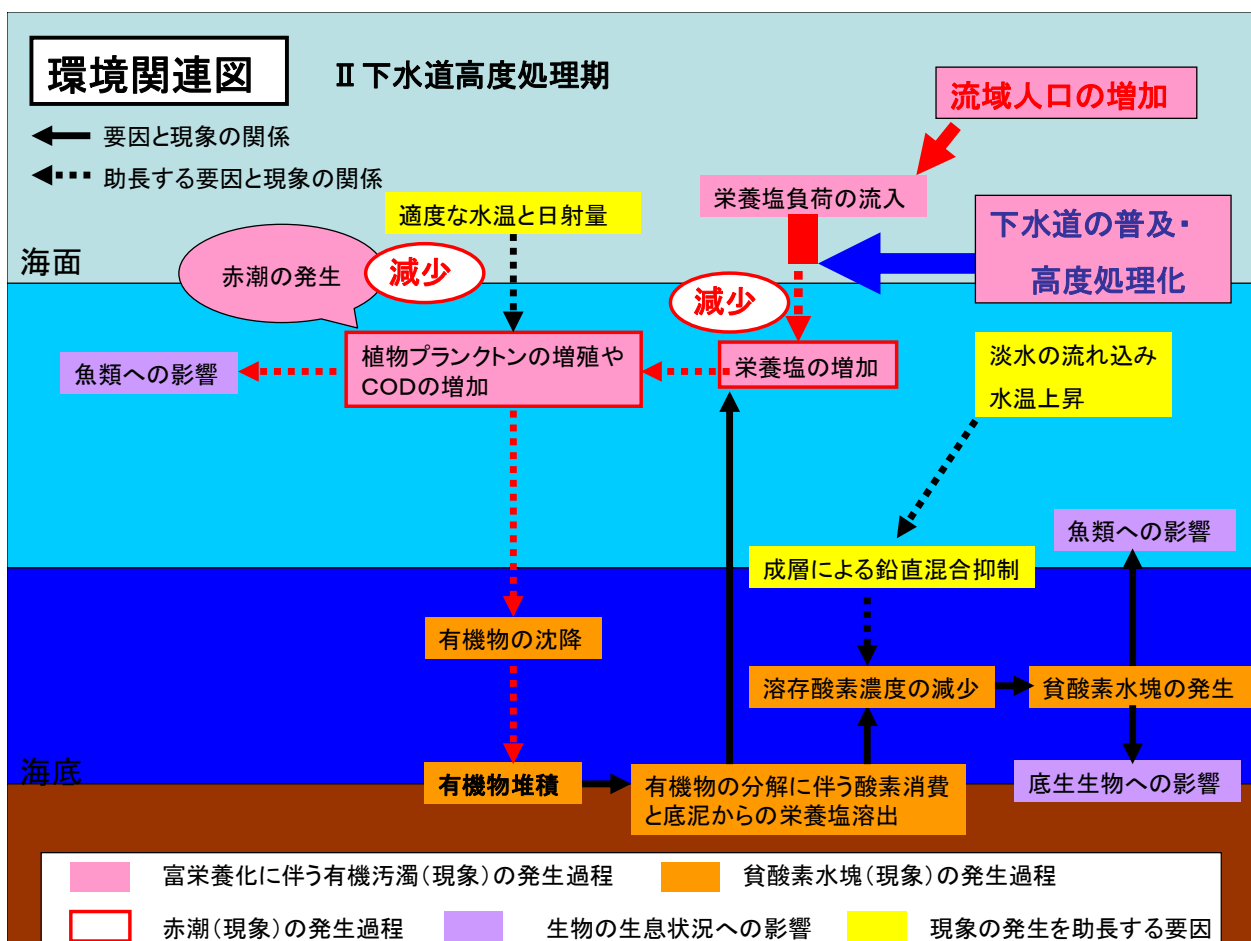
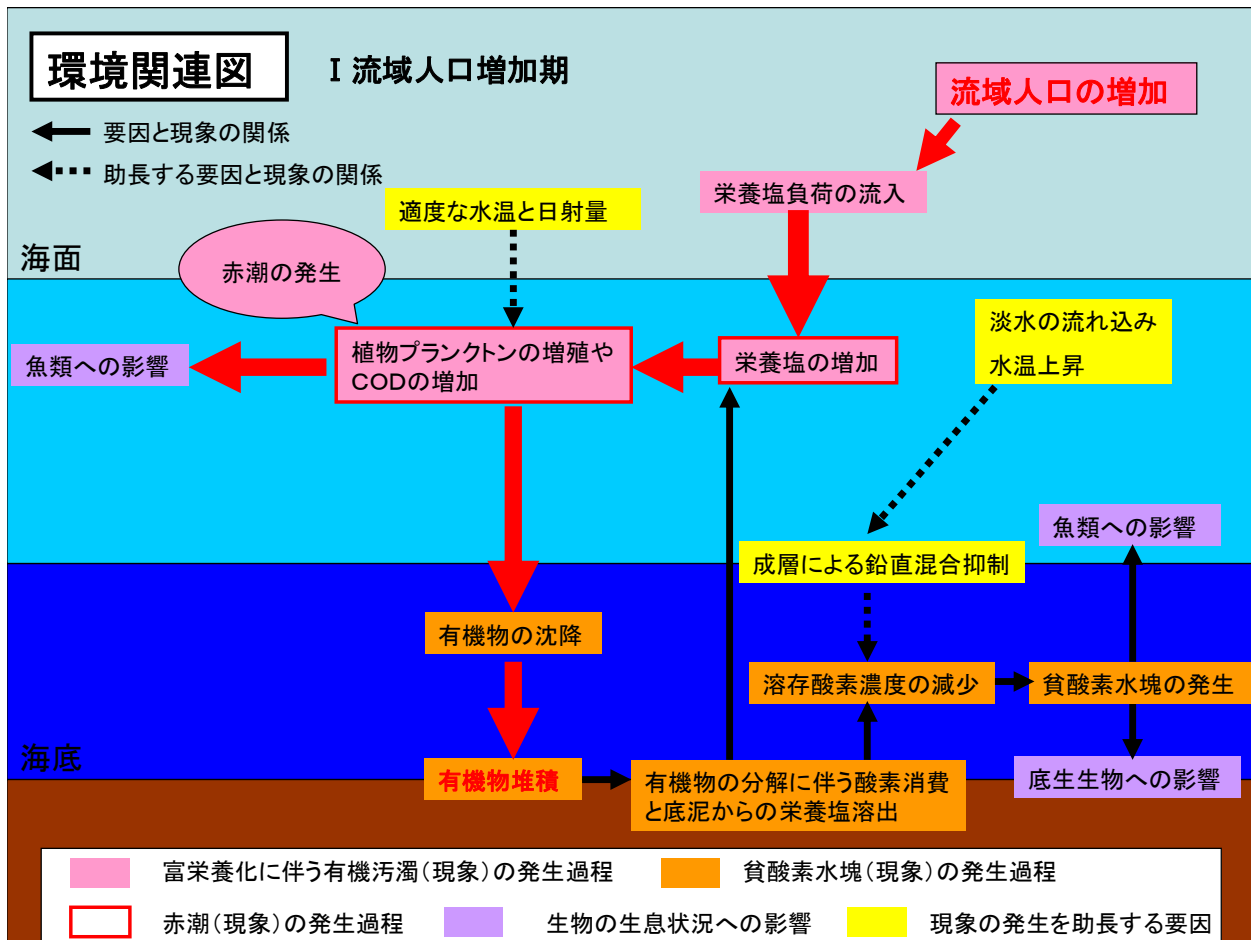
図3-8-1 アイランドシティ周辺海域の自然環境の利用形態



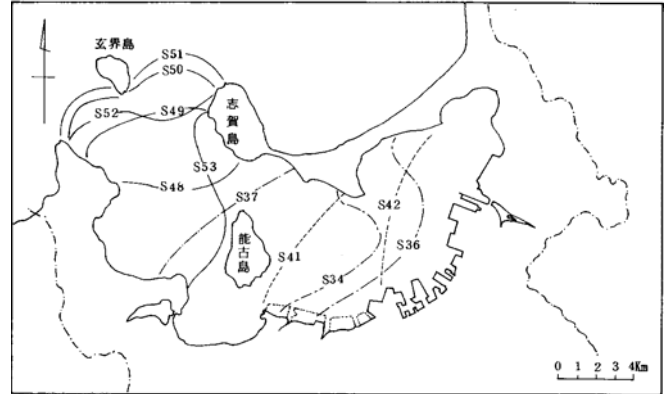
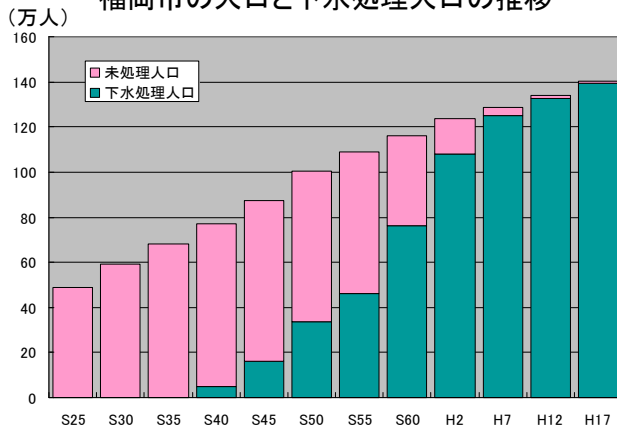
資料1: 「平成5年4月～平成11年10月 アイランドシティ環境監視調査 調査野帳」
2: 福岡市教育委員会調べ

人の利用状況-2 (H12～H16)

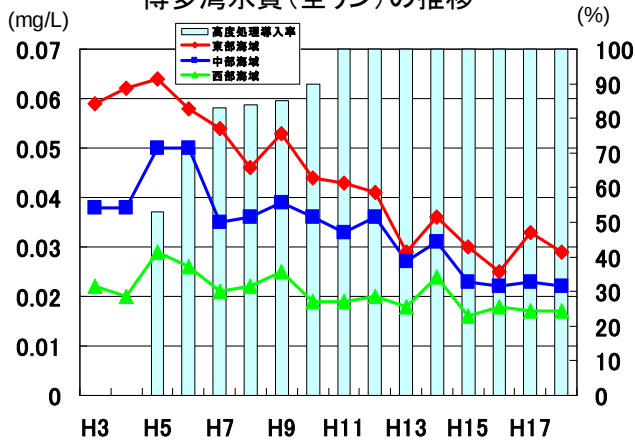




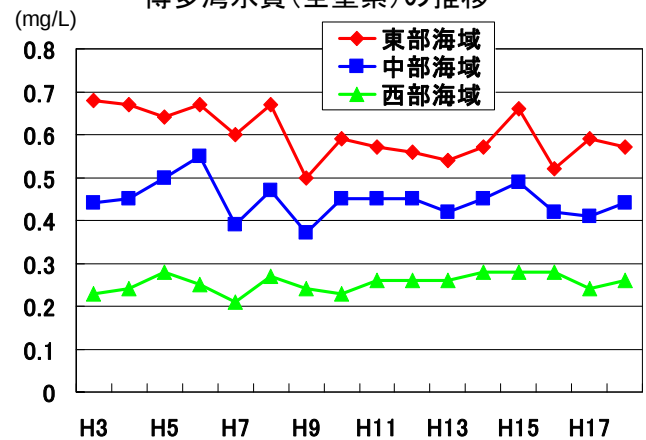
福岡市の人口と下水処理人口の推移



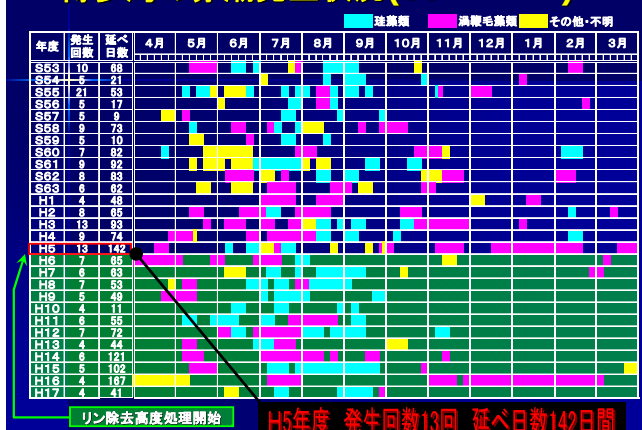
博多湾水質(全リン)の推移



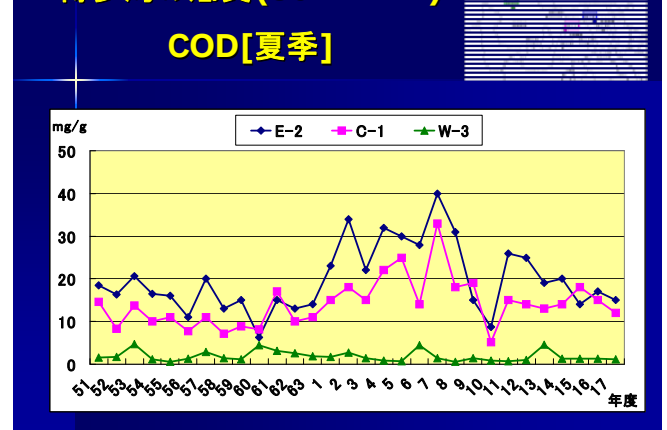
博多湾水質(全窒素)の推移



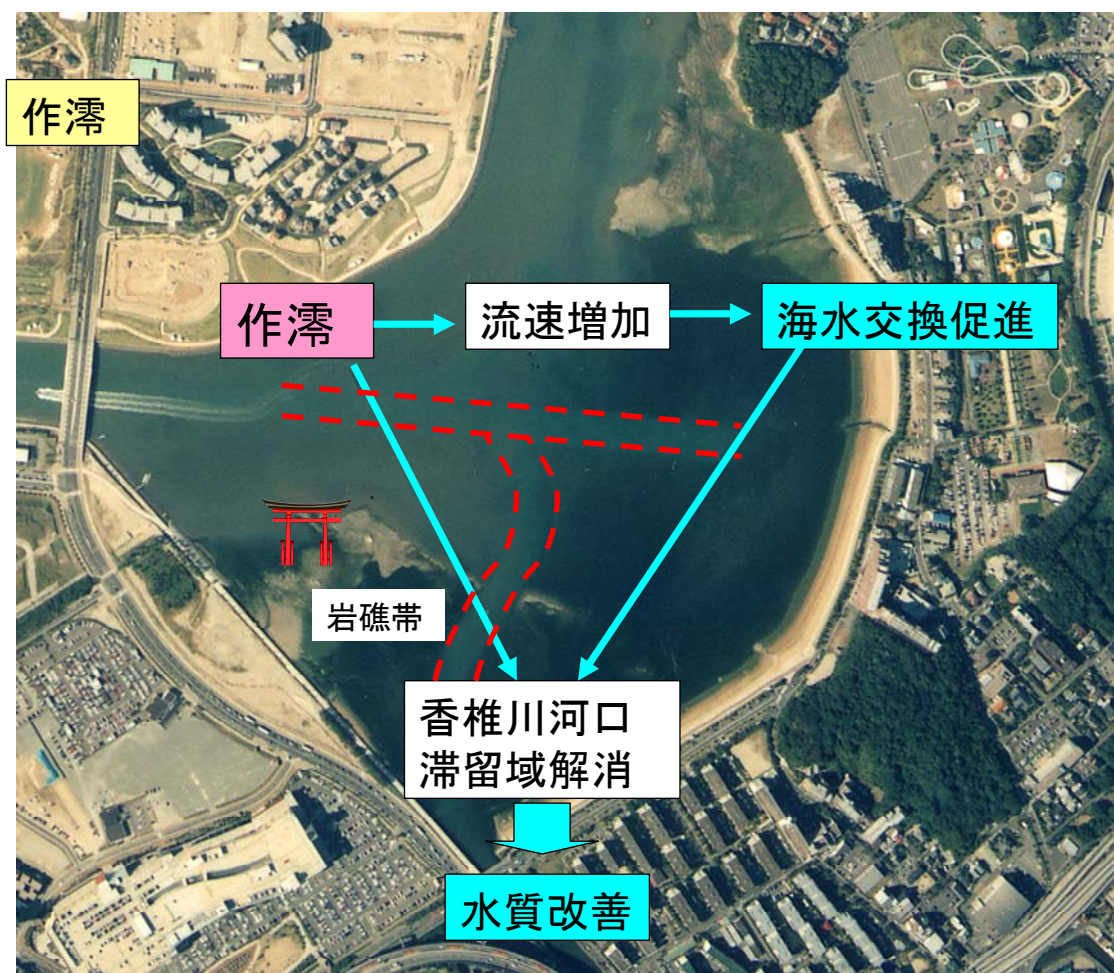
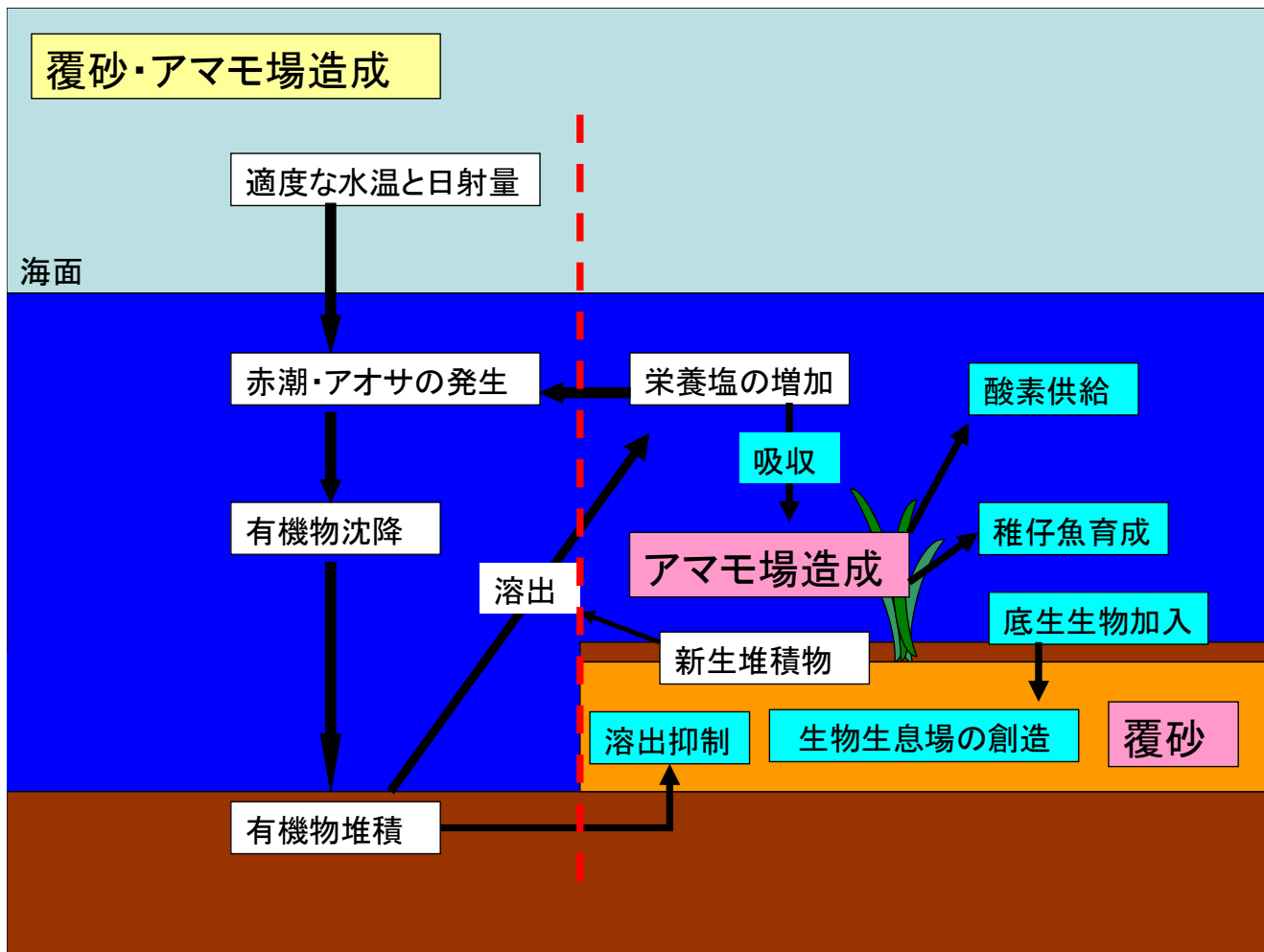
博多湾の赤潮発生状況(S51~H17)

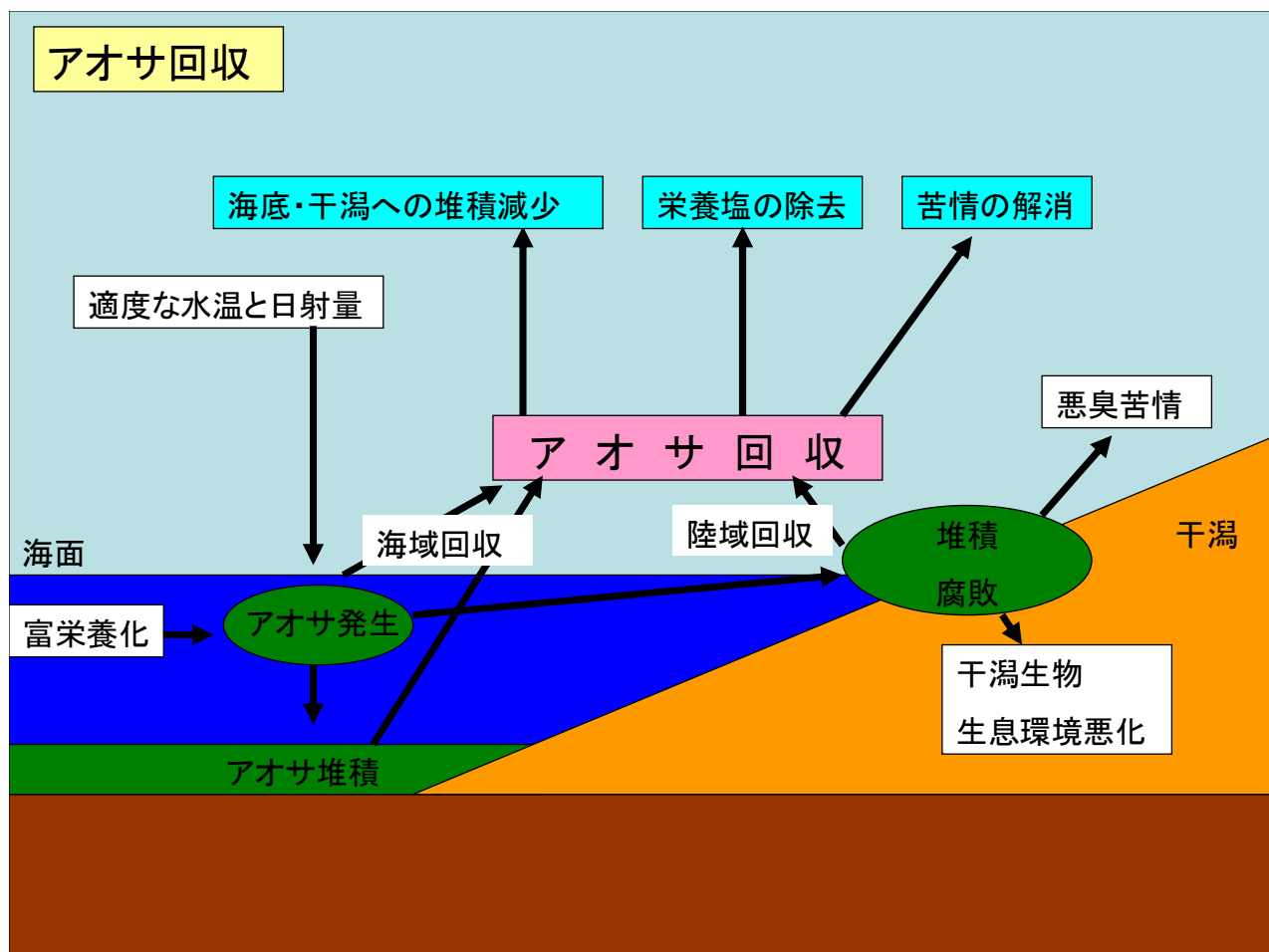
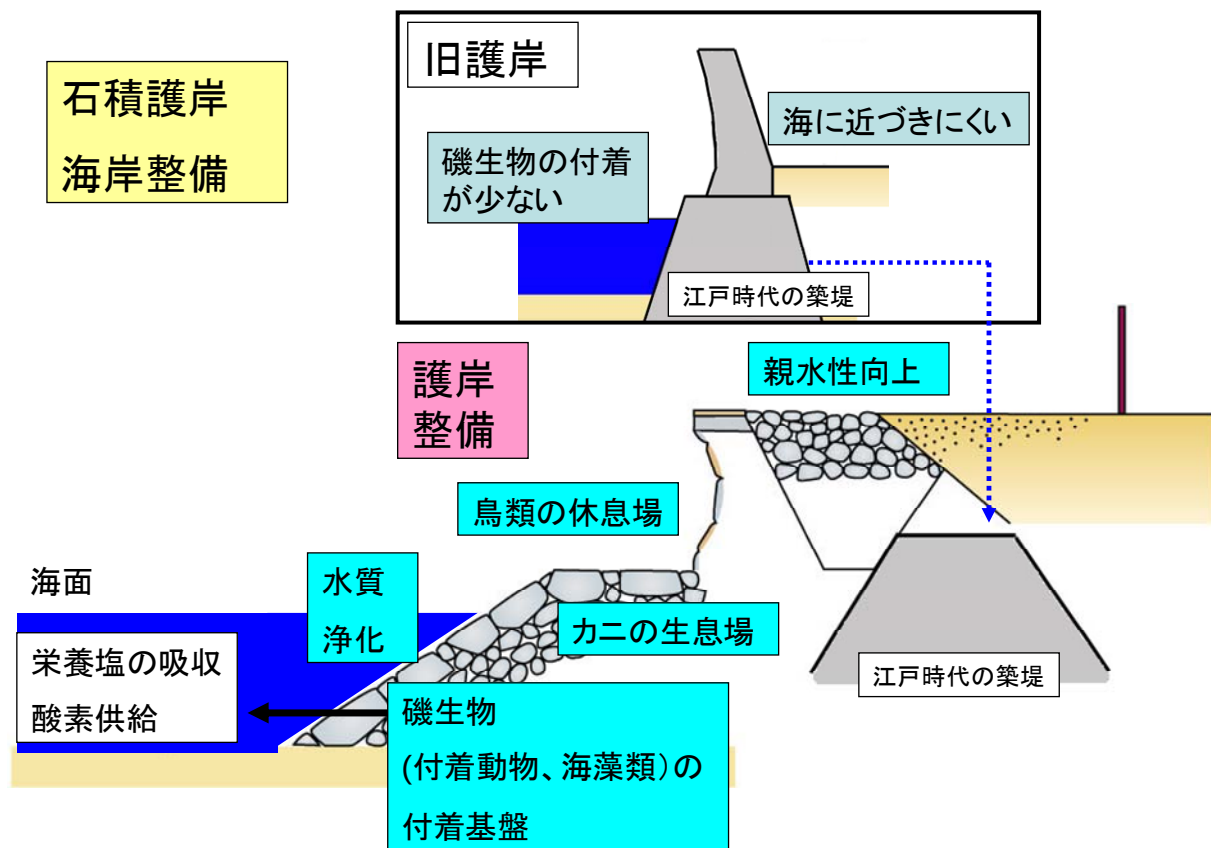


博多湾の底質(S51~H17)



- 流域人口の増加に伴い博多湾の栄養塩が増加し、植物プランクトンの増殖などにより赤潮が発生し、海底に有機物が堆積
- 下水道の普及・高度処理化により、海水中の栄養塩濃度が減少し、冬季の赤潮の発生が減少したが、海底に堆積した有機物は減っていない





施策に期待できる効果

施策	下水道整備 高度処理	覆砂	作濤	アマモ場 づくり	石積護岸 海岸整備	アオサ 回収
水質・底質の改善	◎	◎	◎	○	○	◎
生物生息環境の 改善	○	○	○	◎	○	○
人の利用の 促進	○			○	◎	○